

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991900091		
法人名	一般社団法人 だんだん会		
事業所名	グループホームわいわい白州		
所在地	山梨県北杜市白州町白須1023		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 26 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 2 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①開放型の家。日中はいつも鍵を開けておく ②計画的な献立のない”その日の気分の食事” ③よくしゃべり、よく笑い、よく歩き、よく働き、よく眠る ④「お客様型」ではなく、「自分たちのことは自分たちで」という支援型 ⑤地域住民のみなさんとのつながりを大切にする ⑥経営中心(営利目的)の運営ではなく、「専門家による高い質のケア」を追求

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には葡萄畑が広がり、すぐ近くには白州の道の駅・地元の食堂・野菜の直売所や農協があり、地域生活の中に【わいわい白州】があります。日常生活の実践として事業所が特に力を入れて取り組んでいる【開放型の家】【よくしゃべり、よく笑い、よく歩き、よく働き、よく眠る】【その日の気分の食事】を、色々と見学しながら話を聞きました。開設して7年、その間3年以上に及ぶコロナ禍で面会制限等利用者の生活環境が変化しました。わいわい白州の強みは、どのような環境でも【こだわりどころ】をみんなの力で合わせ、工夫して取り組んでいく姿勢を、創設者・管理者・リーダーそして職員の方々と共有され、行動を起こしていることだと思います。パトンが確実に伝わることで、地域から認められ、必要とされ、なくてはならない地域の福祉資源としてさらに継承し発展されることを期待いたします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)(※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の揭示 定期MTGや日頃の支援を通じて理念の確認を行いながら実践につなげている	基本理念の揭示職員MTGにおいて理念に沿った支援を話し合い確認をしながら実施に繋げている	法人事務局より「わいわい白州の理念の継承は、2人のリーダーの日々の地道な実践から、職員へ染み込み共に考え受け継がれています。」と即答されました。法人の『だんだん会便り』では全事業所が常に土台である理念に立ち返り、日々の支援への取り組みが紹介されています。「目に見えない一番大事な土台、理念の継承に事業所全体で取り組んでいる」ことを伺いました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人になっている。 地域での催しものについては区より情報が入ってくる。	地域の一人になっている。 地域での催しものについては区より情報が入ってくるがコロナ禍で交流は見合わせている。2か月に一回のペースで運営推進会議を行っている	今回、事業所の自己評価結果の中で「地域住民や地元の関係者とのつながりが広がった」に高い評価が付いていました。その理由は「事業を開始して7年が経過しました。最近では食材の買い物や利用者や地域へ出かけて立ち話や交流すること、また地域の行事参加や事業所行事で交流する場面で、地域の一人に迎えられていることを実感している」と管理者コメントで伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により特に実施していない	コロナ禍により特に実施していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営に関する報告とそれに対するご意見ご要望を伺い、地域の様子などの情報を交換するなどしてより良い運営に活かしている	運営に関する報告とそれに対するご意見ご要望を伺い、地域の様子などの情報を交換するなどしてより良い運営に活かしている	2か月に1回、事業所の多目的ホールで会議が開催されています。出席者は利用者とその家族代表・区長・民生委員・地区高齢者クラブ代表・近隣住民代表・介護支援課・地域包括支援センターと事業所より出席しています。情報交換を行う中で、事業所の理解者・アドバイザー・応援者になっていただき、外部の意見を聞く重要な機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、介護認定や事故報告等を通じて事業所の実情を伝えるなどして連携の強化に努めている	運営推進会議をはじめ、介護認定や事故報告等を通じて事業所の実情を伝えるなどして連携の強化に努めている	運営推進会議の出席時に意見交換や、アドバイスをいただいています。毎月の法人の【だんだん便り】を配布し、事業所全体の実情や取り組みを伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から「施錠をしない」ことを基本方針に据えて、身体拘束につながらないかを検討する機会を設けている	開設当初から「施錠をしない」ことを基本方針に据えて、身体拘束につながらないかを検討する機会を設けている	身体拘束は一切行わず、夜間帯以外は玄関の施錠も行いません。リスク管理をしっかり行って職員同士の連携を図り、利用者は外に自由にでかけます。また、リスクは管理するだけでなく予防することを意識して、ユニットミーティングやカンファレンス・事例研究で話し合い、倫理観や知識、技能の維持向上に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けて、虐待の防止と適切なケアの実践について常に検討を重ねている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けて、虐待の防止と適切なケアの実践について常に検討を重ねている今年度はリーダー、サブリーダーで外部講師の勉強会に参加チームMTGで話し合いの場をもうけた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月のユニット長会議やリーダー介護を通じて制度の理解に努めている	毎月のユニット長会議やリーダー介護を通じて制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入念な説明に心がけ、疑問に感じた時には直ちに対応ができるよう情報を共有し、不安の除去に努めている。 必要な時は、更新に向けて話し合いも実施する。	契約時には入念な説明に心がけ、疑問に感じた時には直ちに対応ができるよう情報を共有し、不安の除去に努めている。 必要な時は、更新に向けて話し合いも実施する。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に2回家族会を開催しており、その場でご家族様からはご意見などを頂き意見交換の場としている。また、それらを運営に反映している。	運営推進会議や家族懇親会を開き運営に関する意見交換の場を持っている。今年度はコロナで回数を減らして実施している。	運営推進会議での家族意見や要望、年2回開催される家族懇談会での意見等を検討し、運営面に反映しています。また、家族の要望が多かった直接面会が可能になり、その機会にも職員が意向等を伺うよう意識しています。その他任意の行事として個別の誕生日会や食事会、また、防災訓練や大掃除等の行事も、家族と一緒に取り組む中で話などを伺っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングの中で職員の意見や提案を聞きサービス提供に反映させている。必要に応じて個別面談を行い職員一人一人の意見を聞き反映するように努めている。	月例ミーティングや個別面談の場を設けて意見交換を行っている。	年1回の理事長と職員との個別面談が、組織の取り組みとして定着しています。職員個人の意見や困りごと、組織の課題等理事長が把握した内容は、各ユニットの管理者に報告があり、管理者面談を行います。内容を検討し運営に反映しています。今年度、職員意見の反映として一部シフトの勤務時間を見直し、就業環境の改善につながりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の事情を踏まえ平等な職場環境作りに取り組んでいる。スタッフが有給休暇や希望休を効果的に修得出来る様に勤務シフトに配慮している。	職員それぞれの事情に耳を傾け、各自が向上心を持って働ける様に環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師をお招きして虐待防止委員会を立ち上げたり、リーダー会議の開催、リモートや動画配信での様々な研修会でスキルアップに努めている。	コロナにより内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は北杜市の介護支援課が主催する地域ケア会議及び事例検討会にスタッフが参加してサービスの質の向上に努めているがコロナ禍により交流は実現できていない。	北杜市における連絡会に参加して少しずつ交流の機会を作っている。(コロナで回数減少)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の能力、意向、家族との関係、協力体制など、実現可能な事を探り馴染む場と安心出来る環境作りを努めている。	本人の困りごとや要望に耳を傾けながらご本人やご家族からお話を聞き安心できる環境作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の状況を見ながらご家族様が不安な事や困りごと要望に耳を傾け寄り添いながら関係を作っていく。	ご家族が困っている事や要望に耳を傾けながら認知症ケアの専門職として対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療職を含めチームで見極めを行い適切な対応を検討していく。	医療職を含めチームで見極めを行い適切な対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にとって大切な事、思い入れのあること、こだわりのあること、それらをしっかり把握した上で支援を行う。その方の世界をしっかりと知る事から始め寄り添っていけるよう心掛けている。	本人と共に過ごし敬意を支え合い、それらを把握し寄り添い関係を築いていくような支援を心がけている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関わりや個々にあるご家族様の思いを大切に。誕生日や旅行、行事等一緒に過ごせる時間作りのお手伝いをさせて頂きご家族様とも信頼関係を築いている。が今年は誕生日会にお呼びして一緒に祝う。又はガラス越しの面会。家族会の後の交流のみでとどまる。	ご家族や本人の意思や希望を大切にし、支えている。また、お誕生日会にはご家族の希望も取り入れて開催する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族が来訪された時は歓迎いつでも気軽に過ごしていただける様なアウトホームな雰囲気作りを心掛けています。また、ご本人の思い出の場所や馴染みの店などに出掛ける事で関係が継続出来る様努めているが残念ながら今年はコロナ禍により個人的な外出は見合わせて頂いている。	移住者が半数を占めており、どの様な支援が適切なか悩みながら支援にあたっている。	コロナ禍で、以前のように友人が訪ねて来られたり、馴染みのお店などへの外出ができない状態が続きましたが、友人へ手紙を書いて交流の機会を作ったり、少しずつ改善を図っています。また、遠方より両親を呼び寄せ、当事業所を利用されている利用者の馴染みの関係継続の課題も出てきています。(管理者ヒアリングより)	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の様子の中から利用者同士の関係性を観察しそれぞれの方が生活の主体として尊重され、支え合うよう職員が適切な距離間を持って支援する。	利用者同士が主役になる場を作りつつ、お互いが認め合う関係を築いていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており自宅に引き取る事やほかの施設に移る事も可能であることを伝えて体制を整えている。	必ずしもここが終の棲家ではないことを説明しており、自宅に引き取る事、他の施設に移ることも可能であることを伝えて体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとって過ごしやすい環境とはどのような事なのか、生活層などからの把握に加え、日々関わる中でのご本人の反応などを合わせて観察しやりたいことが出来る様行きたい所に行けるよう支援するよう努めている。	日々の関わりの中で、1人1人の思いに寄り添い、ご本人がやりたいことが出来たり行きたい所に行ける様、支援をする様に努めている。コロナ禍で外出、外食は控えているが散歩やドライブを行っている。	家族懇談会を年2回開催し、その時に利用者の意向や日常生活の様子・心身状態を伝え、また家族の意向をお聞きし、介護計画を提案して話し合っています。多目的ホールで時間を区切ってですが、家族の面会が可能になりました。面会時に気づかれたことや利用者の気持ちを伝えてもらうよう職員から伺っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の場や大切に思われている場所や物などの情報を入居前にご記入いただき把握している。	入居時にご家族に記入して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で観察を行い心身状態、現状を把握してケアプランに反映させ職員全体で情報共有するよう努めている。	日々の生活の中で細やかな観察をし、有する能力に応じて、それが発揮出来るような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の生活を支える上で必要な支援について月例ミーティング等で話し合い具体的な内容や頻度を介護計画に反映し医療や家族の協力、地域資源など地域全体のチームとして支援に取り組んでいる。	定例ミーティング等での話し合いやモニタリングの内容を検討し介護計画に反映している。	利用者同士がお互いに助け合って生活できるように【お客様型】ではなく【自分たちのことは自分たちで】という支援型の考えを軸として、介護計画を考えています。利用者の生活力を把握するアセスメントや気づきのモニタリングを行い、利用者担当職員、医師や訪問看護からの情報、家族懇談会の意向や個人記録を基にカンファレンスを開催し、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は電子入力と筆記を並行活用しその時の様子や発言内容など細かい内容などを記載し勤務者間の申し送りの際は記録及び口頭により情報共有している。それらの記録の内容は支援の見直し等に活用している。	介護記録は電子入力と筆記を活用している。それらの記録の内容は支援の見直しに役立っている。(連絡ノート) 医療面は日々の記録、リハビリノートの活用をしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわいわい白州**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに促されない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリ、作業療法士のニーズに応じて訪問介護事業所からPTやOTが訪問して機能訓練等を行なっている。	リハビリについては、訪問リハビリとの連携をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域の文化祭やお祭り等の行事には積極的に参加している。推進会議などでは地域の方に参加頂き地域行事等の情報を共有。ご入居者がそれらに参加出来る様に支援しているがコロナ禍により今年は参加を見合わせた。	コロナ過で今年は参加を見合わせた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はこれまでの主治医を推奨し医療の選択にお困りの場合にはこちらでご紹介できる体制をとっている。	基本はこれまでの主治医を推奨し、医療の選択が出来ないようなら、こちらで紹介出来るような体制を取っている。	入居時に、本人・家族に、かかりつけ医と事業所の協力医療機関(内科・歯科)の希望をお聞きし、意向に沿っています。現在では、途中から事業所の協力医療機関へ変更される利用者が多くなっています。かかりつけ医との情報共有・囑託医による定期的な往診・事業所の看護師との連携により健康管理に取り組んでいます。(管理者コメントより)	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や看護職の職員と連携し受診や往診、その場での医療処置に対応している。	訪問看護や看護職の職員と連携し、受診や往診、その場での医療処置に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は医療機関へ情報提供を行なっている。入院中は看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り相談するよう努めている。また、退院に向けご家族様とも連携を取り退院カンファレンスが開催される際には参加している。	情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。受診、入院時にはサマリー作成をし情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の有り方について契約時に書面で説明するとともに実際に体調変化があった場合には様々な可能性について提示できる様体制をとっている。	入居時様やご家族様の意向にそった体制づくりをしている。	わいわい白州では、開設以来ほとんどの方が終末期のケアを希望され取り組まれています。医師・看護師と訪問看護が連携し、最後のその時まで、わいわい白州の大家族みんなで見守り、家族も宿泊して寄り添うことができます。お別れの時は利用者も参列して顔を拝し、一言声をかけ、生前の方が好んでいた歌を皆で歌って最後のお見送りをしています。(管理者コメントより)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例ミーティングにて緊急時の対応について随時確認している。緊急マニュアルを作成し適切な対応ができるようにしている。	月例ミーティングにて緊急時の対応について確認し、緊急時対応マニュアルを作成し適切な対応が出来る様になっている。また、防災訓練時消火訓練や消防隊員からお話を伺い研修の場を設け勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及びマニュアルを作成しそれらに沿って行なっている。消防訓練を定期的に行う中で心肺蘇生法や搬送法の演習のほか地震や水害など火災以外の災害発生時の心構えについても職員に周知している。	年2回(日勤帯、夜間帯を想定した)防災訓練を行っている。地域との協力体制は築けている。今年度はコロナ過の為地域の方は招いていない。	年2回の防災訓練を実施しています。今年1月に能登半島地震災害があり、災害を想定したシミュレーションの重要性を感じました。コロナ禍の為、地域住民の参加はありませんが、消防署の方より非常時の[Tシャツ担架]の創り方を教えていただき実演も行いました。2階の利用者の避難誘導の[毛布担架]の方法も教えていただき、今後検討していきます。(管理者ヒアリングより)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の人格を尊重し丁寧かつ親しみを込めた言葉かけや態度で支援している。	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや態度で支援をしている。	「よくしゃべり・よく笑い・よく歩き・よく働き・よく眠る」わいわい白州のモットーとして、人として当たり前な事が普通にできるように、個々の生活支援に取り組んでいます。否定的な言葉は使わず、利用者が笑顔になる会話に努めています。その中でも表情を観察し態度を見ながら、その利用者の現在の気持ちなどを汲み取っています。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がやりたい事や行きたい場所、食べたいものなど、ご自分で決定できる様支援し、そのことを実現できる様にチームとして計画性を持って支援している。	ご本人がやりたい事や食べたい物が自己決定出来る様にチームで支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者それぞれのペースで生活ができる様、職員同士が常に連携を取りながら円滑に支援している。	ご本人が希望される生活が出来る様な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の個性と意思を尊重し、ご本人が好きな服装やヘアスタイル、装飾などが楽しめるよう支援している。	ご本人のお話を聞きながら意見を尊重して服装選びが出来る支援を行っている。コロナの為訪問美容師さんによるヘアカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間やメニューは職員が事前に決めるのではなく何を食べたいかはご入居者が主体で話し合い、献立が決定してから必要な材料を調達したり、出前を取ったり等食事の過程全てを楽しめるように支援している。	メニュー会議をその都度行い入居者さん同士で話し合って頂き、出来ない事は支援させていただきます。	その日の食事メニューは、利用者と献立会議で決めます。冷蔵庫にある食材を見ながら「今日のお昼は何にする？メニューが決まったら、買い物、エプロンをかけ、この野菜洗って、切って、油で炒めて、役割分担して家庭の料理風景の始まりです。干し柿・焼き芋・チョコレートづくり、ウナギバーベキュー等のお楽しみ会も利用者と企画します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の食事摂取量及び水分摂取量を把握し記録に残している。体調不良時や食事が進まない時には栄養バランスや本人の好き嫌い等を考えて状態に合わせた支援を行なっている。	食事量水分摂取量等を把握し脱水症状等を留意している。状態に応じて刻み食、お粥、トロミ等で十分な摂取が出来る様に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせ口腔ケアを行なっている。口腔内に異常が見られる場合は訪問歯科等の医療機関と連携して治療や本人に適した口腔ケア方法について相談し、実践している。	入居者に合わせたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がある場合はその原因を分析してトイレでの排泄が円滑に行えるよう支援する。福祉用具事業所と連携して本人にあった排泄用具の選定や変更を行なっている。	入居者に合わせたケアを行っている。	トイレでの排泄を基本にしています。入居時には排泄パターンやサインをアセスメントし、トイレ誘導を行います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご入居者が食べたい物を美味しく食べる為にもスムーズな排泄は重要である為食べたいものに加えて乳製品や食物繊維の多い食品等を一品加えると共に屋内の運動や外出等で体を動かす様に支援している。	食事(乳製品、食物繊維の多い食品など)や補助食品などなるべく薬を使わないように取り組んでいる。体操や散歩等、体を動かす様な支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に寄り添い、時間や長さ、頻度など選んでいただき楽しんで入浴が出来る様に支援している。	ご本人の希望を尊重した支援を行っている。	利用者の好みの時間帯や誘導の声かけ等を把握し、職員で情報共有を行っています。入浴をしぶられる利用者への誘導や声掛けを工夫しています。「お風呂の湯加減見てもらえますか？〇〇さん、ありがとうございます。」「温かいから入りましょうか？」その後スムーズに入浴されます。記録に残し、職員間で情報共有を行います。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間の様子を把握した上でその方の体調を見ながら疲労感が見られる時は無理に起こさず休んで頂く。また、不眠時には温かい飲み物や甘い物等を提供して安心感を持って頂けるよう努めている。	気持ち良く眠れる様に環境作りに努めている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわいわい白州

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(摩利支天)	ユニット名(尾白)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する能力を個々に見極めてその方に合わせた服薬支援を行う。職員が薬の内容等把握出来るよう薬の情報共有を行っている。	服薬に関する能力を見極めその方に合わせた対応を行う。ファイルを作成し情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者が只日常生活や行事、外出を楽しむのではなく、それぞれのアイデアを活かして企画会議に参加したりして、個々が楽しめる様に支援している。	ご本人の嗜好や趣味を把握し希望に沿った支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍によりドライブや散歩に留め(部外者非接触)医療機関への受診などに限定して支援している。	コロナ禍の為、ドライブや公園までの散歩など留まるがストレスが溜まらない様に配慮する様にした。	コロナ禍の為、受診時に車窓からの景色を楽しむことや、公園までの散歩で人に接触しないように気をつけて取り組んでいましたが、今までのように自由に買い物等に行けないストレスが表れてきたので、焼き芋大会やボール大会等の行事計画を多く企画し、ストレス対策に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年度はコロナ禍により入居者の買い物同行は行わず、買い物代行によりお金を使えるよう支援している。	コロナ禍の為お金を使う機会がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて手紙のやり取りや電話のやり取りを行い元気な声を聞いていただき安心して頂いている。	ご要望に応じて手紙や電話のやり取りが出来る様に支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住んでることを意識できるよう「家」の様な雰囲気、疲れた時には休めるような場所や入居者同士がくつろいで交流出来るような落ち着いた雰囲気を心掛けている。また、季節折々の飾り付けや行事も行い楽しんでいる。	共用の空間を配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	皆で掃除開始、好きな台所仕事、見事な包丁さばき、個々に合わせた座りやすい椅子や利用者のおしゃべりがしやすいテーブルの配置。程よい広さで歩きやすいリビングの空間。木質の色合いや質感、壁の柔らかい色合い、この家の住人9人家族の生活になじんでいました。2階への階段、浴室、トイレ、洗面台も普通の家と同じ感覚で配置されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で他の入居者と過ごしたり、プライベートが保たれる居室で自由に過ごしたり、また居室に人を招き入れたりと、思い思いのスタイルで過ごすことができるよう支援している。	リビングルームで皆さんでくつろいだり、個々の部屋でくつろいだりと様々お好きなように過ごされている。また、1人で寂しい思いをされている時にはリビングルームや気の合いそうな方のお部屋をご案内したり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前まで使用していた家具やお好みの物をなるべく用意して頂き居心地良く過ごして頂いている。	ご本人やご家族が馴染みのある物を持ち、居心地良く過ごせるように工夫している。	入居前に本人と家族で相談し、自分の部屋づくりを行います。今まで使った馴染んでいる椅子や、学習机、ミシンや仏壇などが好みに応じて配置されていました。居室のドアには1部屋ごと、形・色の違う小さなステンドグラスがはめ込まれ、入口のドアが閉まってもステンドグラスの小さな一枚がすりガラスとなり、部屋内の様子が把握でき、日夜の安否確認ができるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に分かりやすい方法で伝わるよう、使用されている居室の把握や表記内容も個人に合わせた表現にしている。	有する能力に応じながら安全で出来るだけ自立した生活が送れる様に支援をしている。		